

## 議長記者会見録

日 時 令和6年12月20日（金）16時30分から16時55分

場 所 議会棟 3階 議会運営委員会室

### ○議会事務局

時間になりましたので、これより議長記者会見を始めさせていただきます。

まず、本日の記者会見の流れについて、ご説明いたします。最初に徳永議長からのごあいさつがございます。

続きまして、幹事社による質問、その後に各社による質問ということで、記者会見の時間は30分程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、徳永議長のごあいさつをお願いいたします。

### ○徳永議長

本日は、報道各社の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、今定例会の運営・広報に関して、様々なご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

社会全体はコロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、本県では落ち込んだ経済の回復、止まらない人口減少への対策、九州新幹線西九州ルートを整備促進、石木ダム建設、離島・半島及び過疎地域の振興など、多くの課題が今なお山積しております。

私といたしましては、引き続き、県民の皆様に寄り添い、ご意見を真摯に受け止め、県議会が一丸となって課題解決に取り組んでまいりたいと考えております。

最初に、今定例会では「核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書」を採択いたしました。

今なお、世界各地で紛争が止まぬ中、日本原水爆被害者団体協議会の皆様の永年に渡る活動に対してノーベル平和賞が授与されたことは、「核なき世界」を目指していく上で大変意義深いことであります。

我々県議会としても、被爆地長崎の立場から、国際社会に向けて核兵器廃絶を訴えてまいりたいと考えております。

次に、佐賀県議会との連携につきまして、新幹線西九州ルートを始め、広域的課題に対応するため、平成22年以来中断していた佐賀県議会との行政懇談会を今年3月に佐賀市内で再開いたしました。今年度は来年1月に長崎市内で開催することを予定しております。

この懇談会は、両県議会の議長及び両県議会議員が一堂に会し、両県に共通する諸課題について意見交換することを通して信頼関係を深め、課題の解決に資することを目的としており、さらに両県議会が連携を深め、より良い方向に進んでいくための有意義な場としたいと考えております。

次に、高校生や大学生との交流について、でございます。

若い世代の政治への無関心が課題となっておりますが、将来のふるさと長崎県を担う若い世代の皆さんが今、何を考え、どのような問題意識を持っているかを私たち議員が、実際に若者の方々と意見交換する中で、感じ取ることや、私たちの声を若い世代に直接伝えることが重要と考え、県議会では、大学生や高校生を対象とした意見交換会を実施しており、私も昨年、県立大学佐世保校において、約 240 名の学生に対して講演をいたしました。

また、今年度は高校生の声を聴こうと考え、年明けになりますが、私の地元である島原高校と国見高校で意見交換を予定しております。今後も若い世代の皆さんが県政に興味を持ち、参加してもらえるような機運を高めるため、県議会議員が若い世代と直接交流できる場を設けてまいりたいと考えております。

次に、現在私は九州各県議会議長会の会長を務めており、「九州はひとつ」の理念のもと、九州の一体的な浮揚を図るため、「新幹線網や高規格道路の整備促進」などの重要項目に関し、九州各県議会議長とともに、11 月に関係省庁等に対して要望活動を実施いたしました。

また、同様に会長を務めております財政基盤強化対策県議会議長協議会では、「地方税財源の拡充強化」などに関し、関係県議会の議長とともに、関係省庁等に対して要望活動を実施しております。

さらに副会長を務めております全国離島振興都道府県議会議長会では、「離島振興対策や有人国境離島法による事業拡充」などに関し、関係省庁等に対して要望活動を実施するとともに、同議長会に設置されている有人国境離島法に関する分科会では会長として、内閣府参事官を講師に招いた研究・協議により、関係県議会議長に見識を深めていただくなど、離島振興政策に積極的に取り組んでいるところであります。

今後も九州・沖縄を取り巻く喫緊の課題について、九州各県と連携を取りながら、国に対して積極的な働き掛けを実施してまいりたいと考えております。

最後に、知事の政治資金関連の問題に対する議会としての対応でございます。

この問題につきましては、全員協議会での質疑のほか、これまで一般質問でも度々取り上げられ、総務委員会での集中審査が実施されたものの、未だ真相究明に至っておりません。

総務委員会集中審査の委員長報告では、「議会全体で議論を継続すべき」と総括されたことを受けて、改めて議会全体で対応するべく、本日の議会運営委員会全員協議会の開催が合意されたところでございます。

今後はこの全員協議会において、真相究明のための熱心な議論が重ねられ1日でも早く、県政の停滞が解消されることを期待しております。

なお、全員協議会においては、知事自らが県議会や県民の皆様に対して、疑惑解消のために十分に説明責任を果たしてもらうことが重要であるため、私といたしましては、引き続き知事に対して丁寧かつ十分な説明を求めてまいりたいと考えております。

以上私の冒頭発言とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議会事務局

これより質問をお受けしたいと存じますが、ご発言いただく際には会社名をお願いいたします。それでは、幹事社から質問をお願いいたします。

○長崎新聞

全員協議会の件について、スケジュール感など決まっているものがあれば教えてください。

○議会事務局

議運の中で決まったスケジュールとしては、質問通告が1月16日までの提出期限ということが決まっております。日程については、2月の10日、12日、13日は半日、詳細はまだ調整中でございます。

○長崎新聞

先ほど西九州ルートなどについて、佐賀県議会との懇談会が1月に長崎市内で開かれるとのことでしたが。

○議会事務局

佐賀県議会等と調整しております。

○長崎新聞

両県知事の参加などのご予定はどうなりますでしょうか。徳永議長としては大石知事にも参加を求めたいと思っていられるのでしょうか。

○徳永議長

私としては参加を求めたいと思っておりますが、調整中です。

○長崎新聞

議会を通して、一番思い出深かったこと、何か残した課題があれば教えていただけないでしょうか。

○徳永議長

議長職がここまで多忙ということが驚きでした。副議長の経験はありましたが、議長として県外、国への要望、海外出張等大変貴重な経験をさせてもらっており、また、様々

な課題があることもあらためて認識させていただいています。

新幹線もどうかしなければならないけれども、すぐに結論が出るものではないので、先ほど申し上げたように昨年度、佐賀県議会との懇談会の再開ができました。以前は講師を呼んでいましたが、まずは皆さんで集まって交流することを目的に、今年度は長崎市内の開催で、皆さんが興味を持っておられるスタジアムシティを見学してもらうとともに、私のアイデアですが、県庁の8階から進化する長崎のまちなみを見ていただきたいと思います。

#### ○西日本新聞

6月以降、先ほどおっしゃった、知事の政治と金の問題というのが出てきたのかなと思います。いろんな会派の方だったり、知事側だったりというところとの調整、各派代表者会議とかが開催されたりして、大変だなと感じられているでしょうか。

#### ○徳永議長

議長として、どこまでが私がやるべきところなのか、県政の中での諸問題のどこまでがテリトリーなのか。選挙の中でのものでもあったので。ただ、そうは言いつつも、この問題はいろんなものが関連し、私もぶら下がり取材を受けたりしましたが、議会として、議長として私の責任として自分なりに考えてやってきました。

田中議員の質問からはじまり、その後知事の記者会見があり、各派代表者会議を開きました。そういう中で、なかなか簡単にはいかない問題ということを私自身認識しました。

議会でもいろいろと質問、そして総務委員会での審議などを行いましたが、その中で決着や、ある程度の目処がつけられればよかったのですが、なかなかできないということで今回、百条委員会の動議提出や全員協議会の申し入れがありました。

私がやらなければならないのは、やはり県政の停滞の解消ですね、どうしたらいいかを議長の立場で考えてますけれども、議長というのも、自分の権限・限界というか、線引きがあるものですから、そういう中で難しいことはありますね。ただ、とにかく県民に対してしっかりと県政運営ができるような関係を作ることが我々議会の責任だと思っていますので、これは今後も努力していきたいと思っています。

#### ○朝日新聞

今年、国政選挙もございました。また、物価高騰とか、皆さん厳しいなと感じながら生活していることもあるのしょうけども、政治と金の問題への国民の関心が高いような状況があります。

また兵庫県などを見ても選挙に関して、SNSがですね、いろんな形でプラスもマイナスもあるのしょうけども、これまでと違うような形の選挙のあり方というのもできて

ました。あれもまた、例えば若い人とかこれまでと違うような方々の政治への関心というものを持たせる原因にもなっているとは思っているので、なかなか注目もされ難しい中で、長崎県議会として来年以降どういう形で県民と向き合っていきたいとのお考えか教えていただければと思います。

#### ○徳永議長

SNSなどにより選挙スタイルが変わると思います。投票率が上がることは非常にいいことだと思います。

しっかりとした情報をつかむことが重要で、報道の皆さんは、やはり中立の立場で発信されると思いますが、SNSの空中戦になればいろんな情報が出てくる。報道各社は、批判されることもあるけれども、しっかりとした対応をされており、感謝しています。そういう中で、皆様方が真実の報道というものを伝えていただきたいという思いがあります。

いくら投票率が上がっても、政治家自身が真面目にやっても、結果的にそれが評価をされず、投票に結び付かなくなったら大変なことだし、またアピール合戦やパフォーマンスになることも大変なことだと思います。

私達はある意味アナログ世代ですが、今の若い議員さんたちが、今後、新しい選挙のタイプと完全に向き合うというか、この中でやっていかなければならないことを私も危惧しています。

県民の皆様や有権者の皆様はどう伝えればいいのか、各党、我々議員もしっかりここは後輩のためにも考えなければならぬ。先ほど高校を訪問すると申しましたが、そういうことを彼らがどう感じているのか、こちらから一方的に言うのではなく、若い世代の意見を聴く良い機会ではないかと思っており、今回訪問する理由の一つとしてあります。

#### ○長崎新聞

今年の漢字としては。

#### ○徳永議長

いや、いろいろありますよね。混迷の「迷」もありますね。災害の「災」もある。能登半島の地震は対岸の火事ではないですから。

私達は熊本の震災を経験している。熊本のときは、島原という対岸があり、私の地元の有明フェリーで長洲から車が行けた。福岡からは物資の車両それに工事車両、自衛隊の車両が全然行けなかったため、長崎から島原を通って行ったんです。あのときは非常に貢献をした。対岸の熊本港の岸壁はやられていましたが、どうにか接岸できたんです。島原は、同じ半島でも対岸があり、フェリーがあるのは強い。船は最高に強い。能登半島は対岸がないですね。

私も震度 5 弱を経験したが相当危ない。南島原市が 5 強でした。震度 6 なら必ず崩壊すると思った。地震の際は、日本家屋の立派な家で瓦が重い、いわゆる 100 坪ぐらいの、座敷が広く「筋交い」がない家が被災し、窓が小さい家は残っている。

この前、防災関係の要望に国に行った際、私から医療コンテナについて要望しましたが、国の方でも考えてくれており、我々も災害対策で何が必要なのかということを、雲仙普賢岳災害の経験も踏まえ、しっかり伝えていきたいと思います。

○議会事務局

他にございませんか。

質問がないようですので、以上で議長記者会見を終了させていただきます。

※ 発言内容については、わかりやすいように一部変更している部分があります